

～ 日本海難防止協会シンガポール連絡事務所発SRO news ～
(Ref No:26-14)

1 7月30日にジャマイカで開催された国際海底機構（ISA）の会合で、パラオのウィップス大統領は、深海域の一層の保護を呼びかけるとともに、同国が深海底採掘の一時停止と予防的措置を支持することを改めて表明し、参加国のリーダーに対し、短期的な経済的利益よりも海洋環境保護を優先するよう強く求めた。同大統領は、パラオの「bul」と呼ばれる伝統的な実践を紹介し、資源保護と持続可能な利用を訴えた。

[原文](#)

(7th August 2026, Island Times)

2 8月4日、日本の吉田防衛大臣政務官は、就任後初の外遊としてパラオを訪問し、オレゲリール司法大臣と会談をした。同会談では、国の安全保障と海洋保護に関する問題において、協力が引き続き重要であることが強調された。また、海上警察を訪問し、統合運用指令センター、巡視船 KEDAM を視察したほか、コロールにある旧海軍基地やペリリュー島の西太平洋戦没者慰霊碑を訪れ、追悼の意を表した。

[原文](#)

(7th August 2026, Island Times)

3 インドネシア海軍は、合同部隊が8月6日に約1.3トンの違法薬物を積んだ外国船を拿捕したことを受け、リアウ諸島のような主要な密輸ルート沿いの海上警備を強化している。また、8月10日から12日までの間、インドネシア海上保安機構（BAKAMLA）、マレーシア海上法令執行庁（MMEA）、シンガポール警察沿岸警備隊（SPCG）は、三国の国境地帯となるリアウ諸島周辺海域において合同演習を実施するとともに、国連薬物犯罪事務所（UNODC）が主催する臨検・乗船・捜索・押収（VBSS）訓練を視察し、同地域における海上保安当局間の連携強化を図った。

[原文](#)

(9th August 2026, Antara)

[原文](#)

(11th August 2026, Tempo)

4 8月7日にスバで開催された太平洋諸島フォーラム（PIF）外相会議において、中国のミサイル試射に対する共同声明の合意が見送られた。NZのピーターズ外相は憤りを示し、中国を念頭に、“外部勢力”が2つの加盟国（キリバスとナウル）を通じて影響力を行使しようとしている、と批判した。パラオとマーシャル諸島は、米国が主

導し 39 カ国が名を連ねた、ミサイル試射に際し 24 時間前までの通知を求める共同声明に参加した。

[原文](#)

(10th August 2026, Island Times)

[原文](#)

(12th August 2026, Pacific Islands Times)

5 8 月 30 日から 9 月 4 日にパラオで開催される PIF 首脳会議に台湾が参加することとなった。8 月 7 日、ワンガ PIF 事務局長が記者団に対し明らかにした。昨年は中国の抗議により開催国のソロモン諸島が台湾の参加を拒否し、結果としてすべての外部国が招待されなかった。中国は、外交関係の健全で安定的な発展に水を差すべきでない、と警告している。また同事務局長は、中国のミサイル試射を非難する共同声明はまだ交渉中であるが、ナウルとキリバスが他の加盟国とは異なる立場を取っている、と述べた。

[原文](#)

(11th August 2026, Island Times)

[原文](#)

(12th August 2026, PACNEWS)

6 日本は、大規模な海洋汚染事故に対応する能力を強化することを目的とし、総額約 1 億円相当となる、船舶、トラック、油流出事故対応用具一式をフィジーに供与した。本支援は、昨年 11 月にフィジーのランブカ首相が日本を訪問し、両国が「ロマヴァタ・キズナ・パートナーシップ」設立に関する覚書に署名したことを受けて行われたものであり、乗組員に対する訓練も今後行われる予定である。

[原文](#)

(12th August 2026, Islands Business)

7 ソロモン諸島は、ガダルカナル島北西部に太平洋島嶼国全体のための燃料拠点を建設する計画を立てている。ワレ首相が今週、西部州の首長らとの懇談の際に明らかにした。同首相は、計画されている施設は最大 12 か月分の燃料を貯蔵でき、同国のエネルギー安全保障を強化するとともに、太平洋地域全体の燃料コスト削減につながる可能性がある、と述べた。月末から開催される PIF 首脳会議でも議論される。

[原文](#)

(13th August 2026, PACNEWS)

8 米国沿岸警備隊 (USCG) の巡視船が 7 月下旬から 8 月上旬にかけてマーシャル諸島のマジュロに寄港し「シップライダー作戦」を実施した。マーシャル諸島海上警察と合同で漁船 3 隻への立入検査を行ったが、法令違反は確認されなかった。USCG のレフラー船長は、この取組は海洋安全保障の推進、重要な海洋資源の保護、そしてブル

ー・パシフィック全域における国境を越えた違法行為への対策に対する相互コミットメントであると述べた。

[原文](#)

(14th August 2026, The Marshall Islands Journal)

9 ミクロネシア持続可能輸送センター (MCST) は、太平洋地域全体の海洋投資に関する情報を集約した太平洋海事データベースプロジェクトを立ち上げた。同データベースによると、2016 年から 2026 年の間、115 件の事業に対し総額約 37 億米ドルが投じられた。そのうち、豪州が最大の資金提供元であり、その他にもアジア開発銀行、世界銀行、日本も主要な資金提供元に含まれている。

[原文](#)

(14th August 2026, PACNEWS)



One of the fishing boats
boarded by the team.
Photos: US Coast Guard.



Successful Coast Guard joint mission

US Coast Guard Cutter Joseph Gerczak visited Majuro for a few days late last month into early August.

During the visit, Coast Guard crew members joined with RMI Sea Patrol officers to conduct bilateral maritime law enforcement boardings — known as “shiprider operations” — in early August in RMI waters.

The Coast Guard operated side-by-side with members of Guardian Class Patrol Boat RMIS Jelmae 03, boarding three commercial fishing vessels. Officers conducted safety, catch, and documentation verifications, enforcing RMI laws. No violations were identified.

CGC Joseph Gerczak crew visited RMI as part of their ongoing Operation Blue Pacific patrol — a multi-mission Coast Guard

endeavor to promote regional security and stability throughout the Pacific.

“Collaborating alongside the Republic of the Marshall Islands on these operations is a distinct honor for our crew and the US Coast Guard,” said Lieutenant Andrew Loeffler, commanding officer of CGC Joseph Gerczak. “This joint effort reflects our mutual commitment to promoting maritime security, protecting vital marine resources, and combating transnational illicit activity throughout the Blue Pacific.”

While in RMI, the crew of CGC Joseph Gerczak participated in friendly sporting events with the College of Marshall Islands Student Government Association and representatives from the Ministry of Finance at the MIHS gym.